

## もう一掘り

縣神社 宮司 田 欽 到 一

もう一鍬 掘りたらぬ為に  
泉の湧かぬ人がある 誰だろう



この正月、平等院通りの柳古堂で、二枚の色紙を手に入れた。華楊の鮎の絵と、一枚は何か意味ありげな暗示的な歌とである。

私は齢八十間近になり、身心ともに限界を感じている。しかし泉の湧く為には、もう一鍬入れよという啓示を得て、長途の旅の疲れは云わず、その雪の中を苦しめないで進み、春の来るのを待ち。もう一掘りしてみようと思う。

近畿一円に在った、三十数余の縣祭の講社は、平成三十年に、残っていた木津信心講が姿を消すことにより、全て無くなった。そして、北河内十数余の村々の初縣祭月参講も、昨令和三年を以て、最後の船橋月参講が終わりを告げ、歴史の幕を閉じた。夜明け前に、全てを見護り、見届けることが出来た。悔いはない。

宇治市芸術文化協会より、請われる階に色紙を物した。私の現在の心境、思いを三枚に託した。

令和四年三月十六日 慕回処士





## 年末年始 神社参拝者接待

梵天講有志の会(開耶会) 谷口 隆

2019年に初めて梵天講の有志会(開耶会)にて、縣神社に年末年始で何かご奉仕できることが無いだろうかと色々と考え、又近くの宇治上神社、宇治神社の接待を参考に我々にできる事はと考へて、縣神社とお茶をコンセプトで考えたとき抹茶(おうす)でと言う声があり、又有志の中で抹茶を提供していただける方がいましたので抹茶(おうす)で行こうと言うことに決まりました。30日から準備、当日午後11時45分接待開始し、出足不安でしたが平等院の鐘が終わるころには大勢参拝に訪れ400杯完了となりました。

打ち上げ反省会では、来年はもっと行けるとの意見がありましたが、新型コロナの影響で祭り他すべての行事が中止に追い込まれました。2021年末今年こそはと神社側と相談の上感染対策を万全に、使いまわしを避けるために何がいいのかと…。

そこで「ぜんざい」。お碗、スプーンも使い捨てと言う案が出ました。お茶処宇治ですので抹茶を入れたらと言う案が出て早速試作。試食会を経て「抹茶ぜんざい」が完成し提供することになりました。2021年12月31日11時45分スタート。天気は雨模様で出足が心配でしたが、順調に400杯完了しました。参拝客の感想は「大変美味しかった」「来年も参拝致します」とのコメントをいただきました。お世話をいただいた梵天講有志(開耶会)の皆様ありがとうございました。



## 宇治で抹茶のお香づくり

INCENSE KITCHEN 後藤 恭子



あがた神社の書院で、宇治の観光客の方に向けた「宇治で抹茶のお香づくり」を開催しております INCENSE KITCHEN の後藤と申します。ご縁をいただき 2021 年より、不定期でお香づくりを開催しています。

私は 20 代半ばまで城陽市で過ごしましたが、10 年以上地元を離れた後、兼ねてより大好きだった宇治に居を構え、現在宇治市民として 9 年が経とうとしています。「宇治で抹茶のお香づくり」を始めたのは、高級抹茶の代名詞とも言える宇治で、趣味のお香づくりを活かし、お子様でも楽しめる宇治の新しい観光体験を提供したいと思ったのがきっかけでした。

お作りいただく「抹茶のお香」は、火を点けず、温めることにより香りが広がる、煙が苦手な方にもお使いいただけるお香です。お香づくりでは専用の香がも一緒にお渡しし、ご自宅でもお抹茶の優しい香りをお楽しみいただけます。

そして、このお香づくりは、「作って楽しい」体験になるよう、お抹茶とも親しみある「お茶菓子」のような形に作っていただくのも特徴です。約五十種類以上ある菓子木型の中からどの形を選ぶかも、お楽しみの一つとなっています。「宇治で抹茶のお香づくり」では、日本のお香の種類や、炭を使った昔ながらのお香の焚き方の実演も行い、宇治在住の方はもちろん、県外のご友人が遊びにいらした際にでも、ご一緒にお楽しみいただける内容となっています。

また、コロナ前ですが海外のお客様がお越しになられた時は、菓子木型にある日本古来の伝統文様にとっても興味深くご覧になられ、抹茶のお香を通じて日本文化をより親しんでいただく良い機会になっているのではないかと考えています。

今後コロナが落ち着き、以前のように多くの方が宇治にお越しいただき、宇治の良さを知って好きになっていただける日が一日でも早く戻ることを願っています。



(INCENSE KITCHEN)

090-8753-1838

【ご予約】

2名様～

大人1名¥6500円(税込 香炉付)

前日 17:00 まで(※※※※※休。その他臨時休業あり。開催日は HP またはお電話にてご確認ください)

# ペペを偲んで

木の花会 上田 邦夫

平成15年の6月。まだ祭の余韻が残る境内に、幼い雌の柴の雑種が元気いっぱい駆け回る姿があった。宮司はこの犬に「ペペ」と名付けた。

以来18年の長きに亘り、神使（かみのつかわしめ）を思わせる“生きた狛犬”として、訪れる誰からも愛され続けた。気品のある顔立ちに優しい目、吠えることなく、尾を振り近づくさまに、ネコ派の私も、ペペに惹かれた。

自身を「ヒト」と思っているのか、人間臭い行動が随所にみられた。そこにまた親近感が湧く。子供たちとは戯れ、老人とは会話をしているように映る。

彼女が境内にいないとなると、訪れた人は、まずキョロキョロとあたりを見回し、宮司に居場所を尋ねる。すると、大幣殿の裏あたりから「ここですよ」と言わんばかりに、欠伸をしながらスゴスゴと現れる。きっと日向ぼっこでもしていたに違いない。彼女の日常は本当に自由だった。まさに存在は“癒しの神”だった。

ある日、行方不明になった。宮司をはじめ皆で捜したが見つからない。何処へ行ったのか・・・この初めての出来事に不安が広がった。彼女の苦手なものに「カミナリ」がある。ゴロゴロ・ピカドーンを一番怖がる。その日は大雨で雷が轟き、境内に鳴り

響いていた。気が動転し自分を見失った彼女は、気がつけば町を彷徨い、遠く黄梨方面まで行っていた。もう帰る術はなかった。

皆が諦めていた一週間後、奇跡的に通報があり、無事涙の再会となった。しかし、身は痩せ細り、毛並みも乱れ、汚れはひどく、元の姿はなかった。それでも宮司の懸命の世話で徐々に回復し、10日後には元気な姿を取り戻していた。

令和に入り、老犬の買録とともに衰えも見え出した。人間の歳でいえば、もう90に近いお婆ちゃんである。致し方ない。

縣の四季の移ろいを幾度となく眺め、賑やかな祭を楽しみ、多くの人々と触れ合い、とうとう縣神社のヒロインになったペペ。惜しまれつつ、令和3年、奇しくも彼女が初めて縣神社にやって来た同じ6月、祭の神事を見届けたのち、18年の人生（犬生）に幕を閉じ、安らかに旅立った。

ペペ永眠り 夢は御境内を かけめぐる

今も境内に設けられた「ペペの社」から、彼女は静かに見守ってくれている。



〈境内灯籠（ソーラー、LED）〉

株式会社 エーシック様

奉納

